

△ 効果・薬害等の注意

- 使用量に合わせ秤量し、使いきってください。
- 本剤を処理する前に耕起整地してください。
- 本剤は土壌中の水分によって分解し、ガスを発生することによって効果を発揮するもので、土壌の種類、水分含量、温度等により効果にふれが出るので、以下のことに十分留意してください。
 - ① 地温が10℃以下のときには使用しないでください。
 - ② 砂質土壌や乾燥した土壌で使用する場合は、ていねいに混和した後灌水して適度の水分を与えてから被覆してください。
 - ③ 次の場合はガスの拡散が遅いので被覆期間を適宜延長してください。
 - ア、重粘土質の土壌の場合
 - イ、降雨などにより土壌水分が多い場合
 - ウ、地温が低い(15℃以下)場合
- センチュウが多発する条件、或いはトマト、なすではセンチュウ類に対する効果が劣る場合があるので、センチュウを防除対象とする場合には、他の防除方法と併用して使用してください。
- ガス抜きが不十分であると薬害が生じるおそれがあるので、少なくとも2回は耕起によるガス抜きを実施してください。なお、ガス拡散の遅い条件の場合は特にていねいに行ってください。
- 本剤を全面に処理する場合、深さ15～25cmに土壌と十分に混和してください。特に、やまのいもに使用する場合は、深さ50～60cmに土壌と十分に混和してください。混和後ビニール等で被覆または鎮圧散水してガスの蒸散を防いでください。7～14日後被覆を除去して、ガス抜きを行ってください。
- 本剤を苗立枯病または芝の目土用土に処理する場合、本剤を十分混和後ビニール等で被覆し、7～14日後被覆を除去して、ガス抜きを行ってください。
- 本剤が作物に直接ふれると薬害を生じるので、周辺に作物がある場合にはかからないように十分間隔をおいて薬剤を処理してください。
- 温室やビニールハウスなどの施設内に作物がある場合、薬害を生じるおそれがあるので使用しないでください。
- りんご、桑、なし及びぶどうに使用する場合は、被害株を抜き取った跡地の周辺部を含めてできるだけ広めに本剤を散布し、深さ25～40cm(りんごの場合は深さ40cm)に土壌と均一に混和してください。本剤処理20日後に被覆を除去して耕起し、翌春に植え付けてください。また、りんご、なし及びぶどうでは植え付けた年は果実を収穫しないでください。
- 南根腐病菌の密度低減のため樹木類に使用する場合は、以下の点に注意してください。
 - ① 行政機関等(県、市町村)から南根腐病の発生地域として指定された防除を必要とする場所での使用に限りです。また、安全管理及び使用方法については、沖縄県の安全使用に係る指導内容を守り、人畜等への被害防止に十分配慮してください。
 - ② 被害株を抜き取った跡地の周辺部を含めてできるだけ広めに本剤を散布し、深さ45cmに土壌と均一に混和し、ガスバリアー性フィルムで被覆してください。本剤処理30日後に被覆を除去して耕起し、植え付けてください。
- ごぼうに使用する場合は生育抑制・岐根等の薬害を生じるおそれがあるので、処理からは種までの期間を十分とり、ガス抜きをていねいに行い、発芽テスト等で安全を確認の上、は種してください。
- しょうが及び葉しょうがの根茎腐敗病に対しては、多発生条件では効果が不十分な場合があるので注意してください。
- は種又は定植の20～10日前に使用する場合は、地温20℃以上の条件に限って使用してください。
- 芝の目土に処理する場合は、目土中に含まれる雑草種子を殺す目的で目土を処理するものであるので除草剤として、芝生に直接散布する事のないように注意してください。
- 葉たまねぎ(苗床)及びたまねぎのは種14日前までに使用する場合は、本剤を均一に散布後、レーキ等で浅く(2～3cm)混和し、ビニール等で被覆してください。7日後に被覆を除去し、さらにその後7日間放置し、は種前にレーキ等で浅く整地によるガス抜きを行ってください。
- たまねぎのべと病は感染力が強く拡がりやすい病害のため、散布剤との体系処理を行い、感染防除に努めてください。
- たまねぎに秋期に使用する場合は、本剤を均一に散布後、十分混和し、ビニール等で被覆してください。約20日後に被覆を除去してガス抜きを行ってください。は種は翌春に行ってください。
- てんさいに秋期に使用する場合は、本剤を均一に散布後、十分混和し、ビニール等で被覆してください。約20日後に被覆を除去してガス抜きを行ってください。は種は翌春に行ってください。
- たばこに使用する場合は、次のことに注意してください。
 - ① 秋期に使用する場合は、本剤を均一に散布後、十分混和してください。混和後鎮圧してガスの蒸散を防ぎ翌春耕起した後、植え付けてください。
 - ② 春期使用する場合は、本剤を散布後、十分混和してください。混和後そのまま放置し、2週間後に畦立てをし、その2日後にビニール等で被覆してください。さらに2週間後に植え付けてください。
- ミツバチの巣箱周辺での使用はさけてください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

△ 安全使用上の注意

- **[医薬用外劇物]** 取扱いには十分注意してください。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせてください。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けてください。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意してください。皮膚に付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすようにしてください。
- 本剤の処理の際は吸収缶付き(活性炭入り)防護マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣、ゴム長靴などを着用してください。ガス抜き作業の際及びガス抜き作業前に施設内に立ち入る場合にも同様の防護マスクを着用してください。また、薬剤が皮膚に付着したり、粉末や発生するガスを吸い込んだりしないよう注意し、作業後は直ちに身体を洗い流し、洗顔・うがいをするとともに衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 作業に際してはガスに暴露しないよう風向き等を十分配慮してください。
- 作業中及びくん蒸中の圃場等へ小児等作業に関係ないものや、家畜、家禽が立ち入らないよう十分注意してください。
- 住宅付近での使用に当たっては、ガスによる被害の発生防止に十分配慮してください。
- 街路、公園等の小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入るおそれのある場所では発生するガスによって人畜等に被害を及ぼさないよう作業中、くん蒸及びガス抜き中は縄囲い及び立て札などを設置し、可能な限り広く立ち禁止区域を設けてください。
- 水にふれると有毒なガスが発生するので保管及び取扱いに注意してください。

魚毒性等……水産動植物(魚類、甲殻類、藻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。
保管……密封し、直射日光を避け、食品と区別して、冷涼・乾燥した所。カギをかけてください。種子、苗、肥料及び他の農薬などと隔離してください。盗難・紛失の際は、警察に届け出てください。

- 火災時は、適切な保護具を着用し水・消火剤等で消火に努めてください。
- 漏出時は、保護具を着用し掃き取り回収してください。
- 移送取扱いは、ていねいに行ってください。
- 空袋・空ボトルは圃場などに放置せず適切に処理してください。

- 施設内で使用する場合は、十分換気をして作業を行ってください。本剤は地温が高いほどガスの拡散が遅いので、作業はできるだけ早朝など地温の低い時に行い、散布後速やかに土壌混和し被覆してください。大型の連棟ハウスでは、散布から土壌混和、被覆までの一貫作業を小面積ごとに順次行うようにしてください。
- 本剤をクロルピクリン剤と同時処理する場合は、ガスの抜けが遅く薬害を生じるおそれがあるので、ガス抜きから、は種または定植までの期間を適宜延長し、発芽試験で安全を確認の上、は種または定植を行ってください。

散布

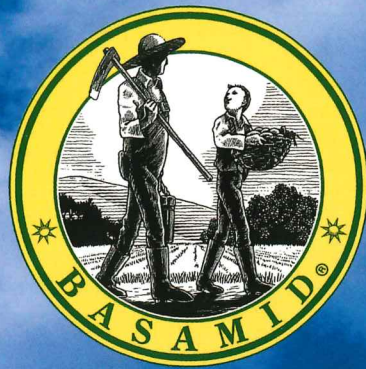
いて
使用

土 壌 消 毒 剤

バスアミド[®]

微粒剤

成分：ダゾメット……96.5%



刺激臭が少なく使いやすい薬剤です。

広範囲の土壌病害・線虫に効果があり、雑草にも有効です。

粒剤なので散布が簡単です。

作物の生育が良くなります。



詳しい製品情報はHPで
ご確認いただけます。



アグロ カネショウ株式会社

東京都港区赤坂4-2-19

®はKSTの登録商標

TS21C07(N/バス23-S)

適用内容

令和3年2月24日現在

作物名	適用病害虫名 適用雑草名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	ダゾメットを含む 農薬の総使用回数	使用方法			
非結球メキャベツ	萎黄病、一年生雑草	20～30kg/10a	定植21日前まで	1回	1回	本剤の所定量を均一に散布して 土壌と混和する。			
キャベツ	苗立枯病(リゾフトニア菌) 株腐病、萎黄病、バーティシリウム萎凋病 根こぶ病、ネコブセンチュウ 一年生雑草		は種又は定植 21日前まで						
はくさい	根こぶ病、尻腐病、根くびれ病 黄化病、ネコブセンチュウ 一年生雑草								
だいこん	ネグサレセンチュウ	10～20kg/10a	は種21日前まで						
かぶ	バーティシリウム黒点病 根こぶ病、萎黄病、一年生雑草	20～30kg/10a	は種又は定植 21日前まで						
非結球あぶらな科葉菜類 (こまつな、しろな、 チンゲンサイ、ひろしまな、 みずな、なばな類を除く)	根こぶ病	30kg/10a	は種14日前まで						
こまつな	一年生雑草	20～30kg/10a	は種10日前まで						
しろな	萎黄病、根こぶ病、一年生雑草		は種21日前まで						
ブロッコリー カリフラワー	テンサイシストセンチュウ	30kg/10a	は種又は定植 21日前まで						
		20～30kg/10a							
なばな類	根こぶ病 一年生雑草	20kg/10a							
チンゲンサイ		30kg/10a	は種又は定植 14日前まで						
ひろしまな									
みずな	立枯病(ピシウム菌) 根こぶ病、一年生雑草	20kg/10a	は種12日前まで						
はつかだいこん	一年生雑草		は種35日前まで						
きゅうり	苗立枯病(ピシウム菌) 苗立枯病(リゾフトニア菌)	200～400g/m ³	は種又は定植 21日前まで			土壌に本剤の所定量を加え十分 混和する。			
	つる割病、半身萎凋病 白絹病、一年生雑草					本剤の所定量を均一に散布して 土壌と混和する。			
かぼちゃ	苗立枯病(リゾフトニア菌)、 フザリウム立枯病、一年生雑草	20～30kg/10a					土壌に本剤の所定量を加え十分 混和する。		
メロン	黒点根腐病、つる割病、白絹病 半身萎凋病、黒変根腐症、一年生雑草					土壌に本剤の所定量を加え十分 混和する。			
	紅色根腐病	30kg/10a					本剤の所定量を均一に散布して 土壌と混和する。		
	苗立枯病(リゾフトニア菌)	200～400g/m ³				土壌に本剤の所定量を加え十分 混和する。			
すいか	つる割病、一年生雑草、白絹病	20～30kg/10a					は種又は定植 21日前まで	本剤の所定量を均一に散布して 土壌と混和する。	
にがうり	つる割病、一年生雑草、ネコブセンチュウ	20～30kg/10a				土壌に本剤の所定量を加え十分 混和する。			
トマト ミニトマト	苗立枯病(リゾフトニア菌)	200～300g/m ³					は種又は定植 21日前まで	本剤の所定量を均一に散布して 土壌と混和する。	
	萎凋病、褐色根腐病、根腐萎凋病、白絹病 半身萎凋病、ネコブセンチュウ、一年生雑草	20～30kg/10a							
	紅色根腐病	30kg/10a							
	青枯病	30～60kg/10a							
なす	青枯病	30kg/10a							
	苗立枯病(リゾフトニア菌)、半身萎凋病 ネコブセンチュウ、一年生雑草、白絹病	20～30kg/10a							
ピーマン	苗立枯病(リゾフトニア菌)、半身萎凋病 萎凋病、青枯病、一年生雑草、白絹病	30kg/10a							
ばれいしょ	そうか病、粉状そうか病 黒あざ病、萎凋病、一年生雑草	20～30kg/10a	植付21日前まで						
とうがらし類	苗立枯病(リゾフトニア菌)、萎凋病 疫病、青枯病、一年生雑草	30kg/10a	定植21日前まで						
ねぎ	黒腐菌核病	30～60kg/10a	は種又は定植 14日前まで			本剤の所定量を均一に散布して 土壌と混和する。			
	紅色根腐病、ネギハモグリバエ	30kg/10a							
	苗立枯病(リゾフトニア菌)、白絹病 小園核腐敗病、萎凋病、根腐萎凋病 ネコブセンチュウ、一年生雑草	20～30kg/10a							
	ネコブセンチュウ、一年生雑草								
わけぎ	苗立枯病(リゾフトニア菌)、一年生雑草	30～60kg/10a	は種又は定植 21日前まで						本剤の所定量を均一に散布して 浅く混和する。
たまねぎ	黒腐菌核病								
	紅色根腐病						30kg/10a		
	乾腐病、ネコブセンチュウ 一年生雑草						20～30kg/10a		
	苗立枯病						20～40kg/10a		
	黒穂病、一年生雑草						20～30kg/10a		
	べと病						20kg/10a		
葉たまねぎ(苗床)	一年生雑草	10～20kg/10a	は種14日前まで						
にんにく	紅色根腐病、イモグサレセンチュウ 白絹病、一年生雑草	30kg/10a	植付28日前まで			本剤の所定量を均一に散布して 土壌と混和する。			
らっきょう	根腐病、乾腐病 ネコブセンチュウ、一年生雑草		植付21日前まで						
にら	乾腐病、紅色根腐病、白絹病		は種又は定植 21日前まで						
	一年生雑草	30～60kg/10a							
にんじん	萎凋病、根腐病、しみ腐病、白絹病、乾腐病 ネコブセンチュウ、一年生雑草	20～30kg/10a							
パセリ	苗立枯病(リゾフトニア菌) 疫病、萎凋病、一年生雑草	30kg/10a							
セルリー	萎黄病、一年生雑草								
あしたば	苗立枯病(リゾフトニア菌)、一年生雑草	は種10日前まで							
しゅんぎく	萎凋病、一年生雑草	20kg/10a	は種21日前まで						
ごぼう 葉ごぼう	萎凋病、黒あざ病、一年生雑草	20～30kg/10a	は種28日前まで						
もりあざみ	黒あざ病、半身萎凋病、一年生雑草	30kg/10a	は種21日前まで						
レタス	白絹病、すそ枯病、一年生雑草	20～30kg/10a	は種又は定植 14日前まで						
	ネグサレセンチュウ	30kg/10a							

作物名	適用病害虫名 適用雑草名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	ダゾメットを含む 農薬の総使用回数	使用方法					
非結球レタス	白絹病、すそ枯病、根腐病、一年生雑草	20～30kg/10a	は種又は定植 14日前まで	1回	1回	本剤の所定量を均一に散布して 土壌と混和する。					
食用ざく	センチュウ類(ハガレセンチュウを除く) 白絹病、萎凋病、半身萎凋病、一年生雑草		は種又は定植 21日前まで								
	青枯病	30kg/10a									
ふき	白絹病、半身萎凋病、一年生雑草	30kg/10a	は種21日前まで								
みつば	立枯病、一年生雑草	20kg/10a									
豆類 (未成熟、ただし、えだま め、実えんどう、さやえん どう、さやいんげん、未成 熟そらまめを除く)	苗立枯病(リゾフトニア菌) 茎腐病、一年生雑草	30kg/10a									
さやいんげん	苗立枯病(リゾフトニア菌) 白絹病、葉腐病、一年生雑草	20～30kg/10a	は種又は定植 21日前まで								
えだまめ	ダイズシストセンチュウ	30kg/10a									
さやえんどう 実えんどう	苗立枯病(リゾフトニア菌) 茎腐病、一年生雑草	20～30kg/10a									
未成熟そらまめ	苗立枯病(リゾフトニア菌) 茎腐病、えそモザイク病、一年生雑草	30kg/10a	は種21日前又は 定植45日前まで								
かんしょ	紫紋羽病、つる割病、白絹病 ネコブセンチュウ、一年生雑草	20～30kg/10a	植付21日前まで								
	基腐病	30kg/10a									
こんにゃく	根腐病、一年生雑草	20～60kg/10a									
	白絹病、乾腐病	20～30kg/10a	定植21日前まで								
さといも さといも(葉柄)	乾腐病、ネグサレセンチュウ 一年生雑草										
しょうが	根茎腐敗病	30～60kg/10a									
	一年生雑草	20～30kg/10a									
葉しょうが	根茎腐敗病	30kg/10a									
	一年生雑草	20～30kg/10a									
みょうが(花穂) みょうが(莖葉)	立枯症、一年生雑草	30kg/10a	定植42日前まで								
いちご	萎黄病、萎凋病、炭疽病 芽枯病、一年生雑草	20～30kg/10a	仮植又は定植 21日前まで								
	青枯病、疫病	30kg/10a									
ほうれんそう	ハウレンソウケナガコナダニ 立枯病、萎凋病、株腐病 根腐病、一年生雑草	20～30kg/10a	は種10日前まで								
てんさい	叢根病、苗立枯病	200～400g/m ³	秋期(翌春は種)								
やまのいも	根腐病、褐色腐敗病、一年生雑草	20～30kg/10a	植付21日前まで			被害株跡地に本剤の所定量を 均一に散布して土壌と十分混和 する。					
つるむらさき	ネコブセンチュウ、一年生雑草		定植21日前まで								
しそ	青枯病、一年生雑草	30kg/10a	は種又は 定植14日前まで								
	ネコブセンチュウ、一年生雑草		定植30日前まで								
モロヘイヤ	ネコブセンチュウ、一年生雑草	20kg/10a	は種42日前まで								
チャービル	一年生雑草	20kg/10a									
なし	白紋羽病	100g/m ²	夏期～秋期								
ぶどう		50～100g/m ²									
りんご	紫紋羽病、白紋羽病										
花き類・ 観葉植物	苗立枯病(リゾフトニア菌) 株腐病、球根腐敗病、首腐病、半身萎凋病 萎凋病、萎黄病、白絹病、立枯病 根頭がんしゅ病、ネコブセンチュウ	20～30kg/10a	は種又は植付前								
	一年生雑草	20～60kg/10a									
	青枯病	30kg/10a									
カーネーション	萎凋細菌病	20～30kg/10a	は種又は植付前								
きく	センチュウ類 (ハガレセンチュウを除く)										
ストック	苗腐病	30～40kg/10a	植付前								
	萎凋病										
ぼたん しゃくやく	根黒斑病	20～30kg/10a	は種又は植付前								
スターチス	萎凋細菌病										
グロリオサ	紅色根腐病										
スイトピー	腰折病										
さくらそう	軟腐病										
トルコギキョウ パンジー	根腐病										
アイランドポピー	萎縮病										
せんりょう	立枯病、一年生雑草	10～20kg/10a	秋期(翌春植付)								
つつじ類	センチュウ類、一年生雑草										
樹木類(苗木)	一年生雑草										
たばこ	角斑病、野火病、センチュウ類	10～20kg/10a	春期(植付前)								
	立枯病、黒根病、疫病、一年生雑草	20～30kg/10a									
	疫病、センチュウ類	5～10kg/10a									
芝	一年生雑草	目土用土1m ³ 当り 100～200g	雑草発生前								
		30kg/10a	は種又は定植 21日前まで								
桑	紫紋羽病、白紋羽病	1株当り(4m ²) 400～600g	夏期～秋期								
樹木類	使用目的: 定植ほ場の南根腐病菌の密度低減	100g/m ²	定植前			被害株跡地に本剤の所定量を 均一に散布して土壌と十分混和 する。					

バスアミド微粒剤の使用方法

土壌消毒剤
バスアミド微粒剤



10kg
※他の包装もあります。

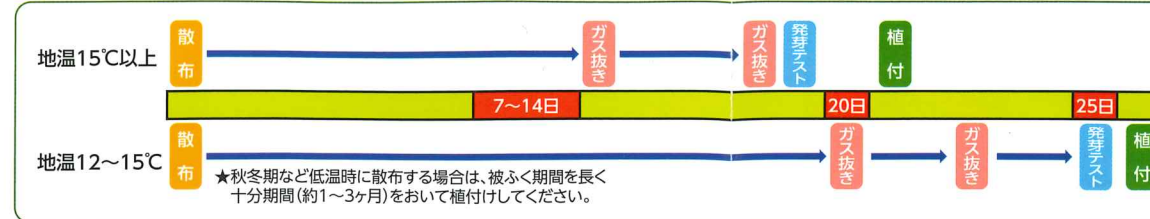
バスアミド専用散布器
バスサンパー



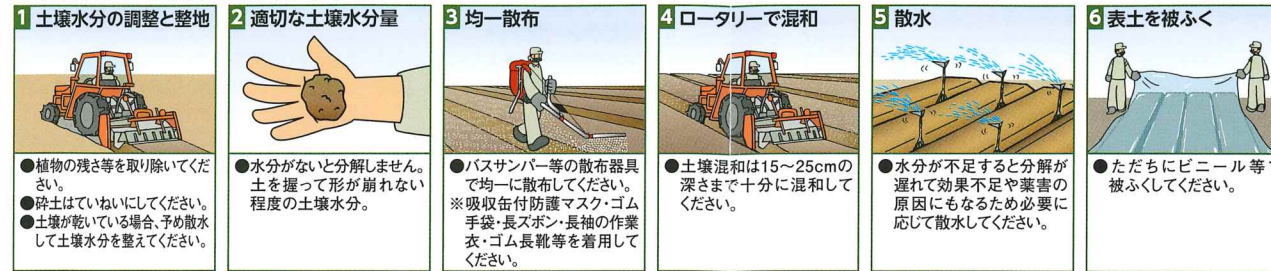
発芽テスト用キット
発芽くん

バスアミド専用散布器
バスこまき

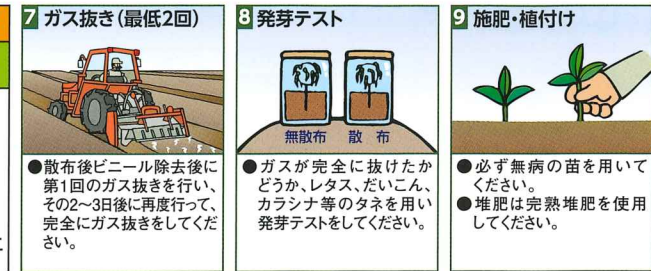
散布から植付までの目安



散布から植付までの作業手順



地温	被ふくの日数
25℃以上	7日~10日
20℃	10日~14日
15℃	14日~20日
10℃~15℃	20日~30日以上



●バスサンパーによる散布



●サンソー(ジョーニシ)による散布



バスアミド微粒剤の上手な使い方

センチュウ剤(D-D剤)併用処理

●センチュウが多発する圃場では必ずセンチュウ剤を併用してください。

施設栽培(トマト・ナス・ピーマン)等のセンチュウが多発する圃場

- 1 土壌の整地
- 2 均一散布
- 3 ロータリーで混和(2回)
- 4 D-D剤注入(15~20cm)
- 5 表土を被ふく
- 6 ガス抜き(最低2回)
- 7 施肥・植付

10日~14日後

ハウス内処理(使用時期3月~11月)

●施設栽培作物の土壌消毒にオススメです。
●他の土壌消毒剤と比べて刺激臭が少ないので作業がしやすいです。

ほうれん草・いちご・トマトなど(センチュウが発生する場合はセンチュウ剤併用処理)

- 1 土壌の整地
- 2 ハウス縁の土はクワ等で内側に入れる
- 3 均一散布
- 4 ロータリーで混和(2回)
- 5 灌水チューブ設置
- 6 表土を被ふく
- 7 灌水
- 8 ガス抜き(最低2回)
- 9 施肥・植付

10日~20日後

太陽熱併用処理(使用時期7月~8月)

●難防除病害に有効です。

メロン・トマト・ピーマン・いちごなど太陽熱消毒と併用する場合

- 1 土壌の整地
- 2 均一散布
- 3 ロータリーで混和(2回)
- 4 小畦立・灌水チューブ設置
- 5 表土を被ふく
- 6 灌水
- 7 ガス抜き(最低2回)
- 8 施肥・植付

30日以上ハウス密閉

苗床表層処理

●雑草防除に最適です。

たまねぎの苗床

- 1 土壌の整地
- 2 施肥・畝立て
- 3 均一散布
- 4 レーキで混和
- 5 散水
- 6 表土を被ふく
- 7 7日間放置後レーキでガス抜き(最低2回)
- 8 播種

7日後

秋冬処理(使用時期11月・12月上旬~翌春ガス抜き)

●被ふく期間を長くすることによって秋冬処理が可能になります。
●春先のわずらわしい作業が省力化されます。

たばこ・はくさい・やまのいも・きくなどの秋冬処理の場合

- 1 土壌の整地
- 2 均一散布
- 3 ロータリーで混和(2回)
- 4 表土を被ふく又は鎮圧
- 5 ガス抜き(最低2回)
- 6 施肥・植付

2~3ヶ月後

石灰窒素併用処理(使用時期4月~10月)

●石灰窒素の併用により、バスアミドの効果が安定します。(ハクサイ：根こぶ病)

ねぎ・ほうれん草・アブラナ科野菜など石灰窒素と併用する場合

- 1 土壌の整地
- 2 石灰窒素を均一散布
- 3 バスアミドを均一散布
- 4 ロータリーで混和(2回)
- 5 表土を被ふく
- 6 ガス抜き(最低2回)
- 7 施肥・植付

10日~14日後

床土の処理(使用時期4月~10月)

●1~2m³の土であれば手作業で行えます。

きゅうり・トマト・ミニトマト・すいか・メロン・てんさいの床土

- 1 20cmの高さに準備する
- 2 均一散布
- 3 スコップなどで混和
- 4 散水
- 5 表土を被ふく
- 6 ガス抜き(最低2回)
- 7 播種・植付

10日~20日後

使用上のポイント及び注意事項

- 散布混和後、D-D剤を注入し被ふくしてください。
- 粒状のセンチュウ剤を併用する場合は、ガス抜き後に処理を行ってください。
- D-D剤の使用上の注意事項にしたがって処理してください。
- ハウス内では、十分換気をして作業を行ってください。
- 本剤は地温が高いほどガスの拡散が早いので、作業はできるだけ早朝など地温の低いときに行い、散布後速やかに土壌混和し被ふくしてください。
- 大型の連棟ハウスでは、散布から土壌混和、被ふくまでの一貫作業を小面積ごとに順次行うようにしてください。
- ハウス内に作物がある場合は、施用を避けてください。
- ハウス(内)の縁は、十分な消毒ができないことがあるので、散布前に縁の土をハウス中央にクワ・スキ等で寄せた後、散布混和してください。
- 太陽熱併用の場合は、土をできるだけ乾燥状態にして散布してください。
- ロータリーで混和後、必ず小畦立を行ってください。
- 畦の谷間に灌水チューブを設置し、被ふくをしてください。灌水は畦いっぱいまで水を溜め、その後は自然落水させてください。(再灌水はしない。)
- 処理後ハウスは密閉し、30日以上は放置してください。
- 太陽熱を併用すると作物の吸肥力が增大するので、土壌診断を行い、施肥量を削減してください。
- 播種前に発芽テストを行ってください。(発芽テストで発芽不良の場合は再度ガス抜きを行ってください。)
- 使用する時の地温が、10℃以下では使用しないでください。
- 秋冬処理(使用時期11月・12月上旬)の場合は、処理後2~3ヶ月放置してください。
- 播種・植付け前に発芽テストを行ってください。(発芽テストで発芽不良の場合は再度ガス抜きを行ってください。)
- 石灰窒素を併用する場合は、100kg/10a以内にしてください。
- 石灰窒素の使用上の注意事項にしたがって、処理を行ってください。
- 使用する時の地温は15℃以上に限ります。
- バスアミドの使用量は1m²当り200g~400g。
- スコップなどで、できるだけ均一に混和してください。
- 播種・植付け前に発芽テストを行ってください。(発芽テストで発芽不良の場合は再度ガス抜きを行ってください。)